



- いようにする。
- わかっていることに青ライン、聞いていることに赤ライン、単位に赤○をつけさせる。
- 前時の問題との異同を弁別する。
- 「 $9 + 4$ 」の式を提示して、違いが分かるようにする。
- 両学年の様子を見ながら必要によって直接指導に入る

- 式になることを考え立式する。
- 式は $3 + 9$ になる。
- 既習との違いを考える。
- $9 + 3$ は、前にある数が後ろの数より大きかった。
- 今日の式は、 $3 + 9$ になって、前の数が後ろの数より小さくなっている。
- 後ろの数が10に近い数になっている。

<課題>

3 + 9のたしざんの答えをぱっともとめるほうほうをかんがえよう

- 児童の言葉を基に課題を設定する。1年生は、一般化した課題ではなく、問題文を基にして課題を設定させる。



- 前時までの学習を想起させて、10のまとまりをどのように作ったらよいかを考えさせて方法の見通しを立てさせる
- 両学年の児童の様子を見ながら、必要に応じて、支援をする。

2 解決の見通しを立て、自力解決をする。  
10分 (K4活動 (K4確認))

- ブロックを使って考えるとできそう。
- 図でできそう。
- サクランボさくせんでできそう。
- ことば作戦でできそう。
- 10のまとまりをつくるとできそ

$$\begin{aligned} 8 \times 3 &= \\ 8 \times 4 &= \\ 8 \times 5 &= \\ 8 \times 6 &= \\ 8 \times 7 &= \\ 8 \times 8 &= \\ 8 \times 9 &= \end{aligned}$$

<課題>

8のだんの九九のつくりかたを考えよう



位に○をつけさせているが、本時では、問題を理解することが児童にとっては容易なことから、式を発表させた後、すぐに課題を設定させる。

- 両学年の様子を見ながら、必要に応じて直接指導に入る。

- 児童の言葉を基に課題を設定する。

2 解決の見通しを立て、自力解決を10分 (K4活動) (K4確認)

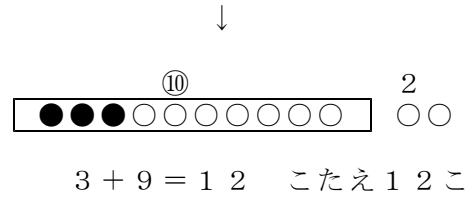
- 8ずつ何回もたしていくと答えが出る。(たすたす作戦)
- 1つ前の九九の答えに8ずつたしていくと答えが出る。(前たす作戦)
- かけられる数とかける数をひっくり返してかけても答えが出る。(こうかん作戦+前たす作戦)

- 前時までの学習を想起させて、方法の見通しを立てさせる。

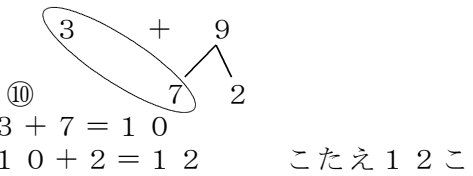
- 両学年の児童の様子を見ながら、必要に応じて、支援をする。



• どの数をどのように分けて10のまとまりを作ったのかが分かるように、10のまとまりを線で囲ませるようにして、考え方が分かるように表現させる。



③ サクランゴさくせん



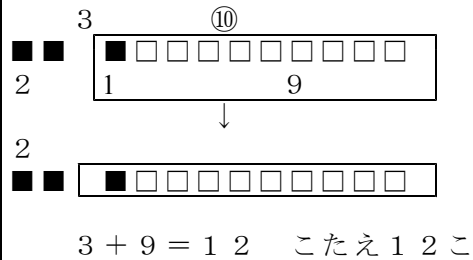
④ ことばさくせん

- 3はあと7で10
  - 9を7と2にわける
  - 3と7で10
  - 10と2で12
- こたえ 1 2 こ

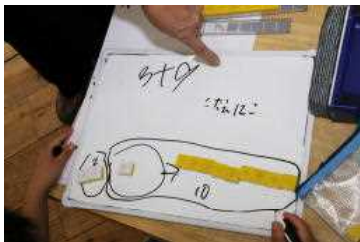
(2) まえわけたしざん(被加数分解)

3を2と1にわけて10のまとまりをつくる。

⑤ ブロックさくせん



• 計算のあとが分かるように、数や式を書かせて考え方が分かるようにする。



② まえたす作戦

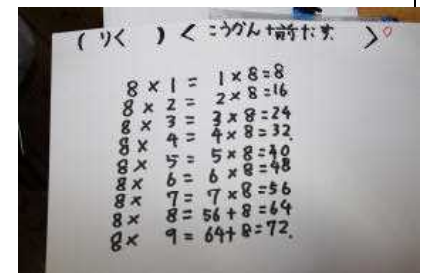
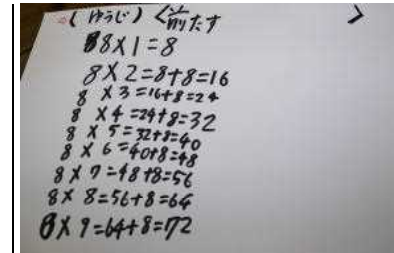
1つ前の九九の答えに8をたしていく。(かける数が1増えるとかけられる数答えはかけられる数だけ増えていく。)

- 8 × 1 = 8
- 8 × 2 = 8 + 8 = 16
- 8 × 3 = 16 + 8 = 24
- 8 × 4 = 24 + 8 = 32
- 8 × 5 = 32 + 8 = 40
- 8 × 6 = 40 + 8 = 48
- 8 × 8 = 56 + 8 = 64
- 8 × 9 = 64 + 8 = 72

③ こうかん作戦+まえたす作戦

(かけられる数とかける数を反対にしてかけても答えは同じになる・交換法則)

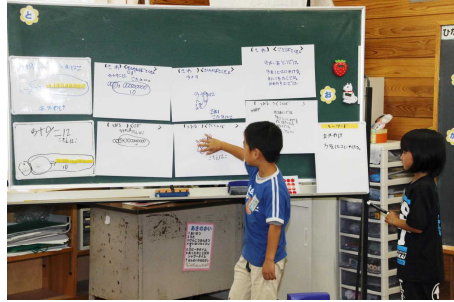
- 8 × 1 = 8
- 8 × 2 = 2 × 8 = 16
- 8 × 3 = 3 × 8 = 24
- 8 × 4 = 4 × 8 = 32
- 8 × 5 = 5 × 8 = 40
- 8 × 6 = 6 × 8 = 48
- 8 × 7 = 7 × 8 = 56
- 8 × 8 = 56 + 8
- 8 × 9 = 64 + 8 = 72











<評価>

【考】加数、被加数の大小も考えて、10のまとまりを作ることに着目して、計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。

<評価方法>【観察・発表・発表ボード】

A 加数分解、被加数分解による計算の仕方を理解してブロック操作、図、式を関連付けて説明ができる。

B 加数分解、被加数分解の計算の仕方を理解して、ブロックを操作しながら説明ができる。

C 繰り返りのある加法の仕方が理解できない。

～Cの児童への手立て～

◇ブロック操作を中心に、10のまとまりを作るにはどうすればよいか考えさせる。

<評価>

【考】乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、8の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。

<評価方法>【観察・発表・発表ボード・ノート】

A 乗法についての成り立つ性質や決まりを複数使い、8の段の九九を構成することができる。

B 乗法についての成り立つ性質や決まりを使い、8の段の九九を構成することができる。

C アレイ図を数えるのみで、乗法についての性質や決まりを使って8の段の九九を構成できない。

～C児への手立て～

◇6段、7の段の九九の構成についての既習を振り返らせ、アレイ図に数のまとまりを囲み、乗法の決まりを見つけさせるように支援する。

4 まとめをする  
5分 (K 4 価値づけ)

3 + 9 のこたえは、9 で 10 のまとまりをつくると、ぱっとこたえがでる。

- 被加数と加数の数の大きいほうで10のまと
- 9で10を作る計算の仕方をたしかめる。

4 まとめをする  
5分 (K 4 価値づけ)

8のだんの九九は、前たすきくせん、こうかんさくせん、わけたすきくせんなど、かけ算のきまりをつかうと、つくることができる。

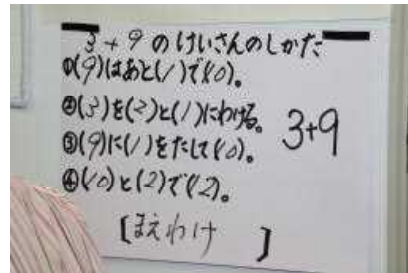


まりをつくる方が操作が簡単に済むことを本時のまとめとする。

- ・ 児童の言葉を基にまとめる。
- ・ キーワードを基にまとめられるように支援する。
- ・ 全体で、 $3 + 9$ の計算の仕方を確かめる。

- ・ 加数分解を否定するのではなく、新しい考えとして被加数分解を位置づけて計算の仕方を確認する。

3 + 9のけいさんのしかた  
まえわけたしざん  
① 9はあと1で10  
② 3を2と1にわかる  
③ 9に1をたして10  
④ 10と2で12



- ・ 童の言葉を基にまとめる。
- ・ キーワードを基にまとめられるように支援する。

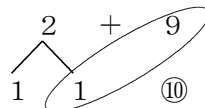
- ・ 本時は、8の段の九九の構成であるため、適応問題は取りあげない。

5 適用問題に取り組む  
5分 (K4 価値づけ)

2 + 9のけいさんをしましょう。

- ・ 9から10を作るとすぐに10のまとまりになることのよさを実感させるために、被加数分解で解かせ、児童自ら「よりよい方法」を選択し、活用できるようにしていく。
- ・ 図や式と関連させてブロック操作をさせ、どの数を使って10のまとまりを作ったの説明させ、繰り返りがある加法計算の理解を確実にする。

- まえわけさくせん (被加数分解)  
9はあと1で10だから、2を1と1に分けた。  
9に1をたして10。10と1で11。こたえは11。



- 本時の学習を振り返り、ノートに感想を書かせる。
- 学年内で感想を発表した後、1, 2年生で交流させる。

**6 学習を振り返る。**  
5分 (K 4 価値づけ)

- 学習を振り返り、ノートに学習感想を書き、発表し合う。
- 本時でどのようなことを学習してどのようなことがわかったかについて、2年生と交流する。



**5 学習を振り返る**  
5分 (K 4 価値づけ)

- 学習を振り返り、ノートに学習感想を書き発表し合う。
- 本時でどのような学習をしてどのようなことが分かったかについて、1年生と交流する。



- 本時の学習を振り返り、ノートに感想を書かせる。
- 学年内で感想を発表した後、1, 2年生で交流させる。

